

酒々井町郷土研究会報

第62号

平成3年10月1日発行
酒々井町郷土研究会
編集部

「酒々井」という地名は「須々井」から！ 酒々井歴史余話(一)

高橋 健一

「酒々井」という地名の意味は、「清らかな水の湧く所」と解釈できます。それは、「しすい」は本来は「すすい」であったからです。ススとは「すすぐ」という意味で「清浄にする」ことをいい、イには「水が湧き出る所」の意味が内在しています。

これまで、酒々井というところ親はうま酒・子は清水」という各地に伝わる孝子伝説、酒泉伝説の中で語られてきました。実際には、その場所こそ特定はできないものの、山裾の水の湧き出る場所のうちに、特に蒸餾される自然の湧水地(井戸)があり、そこをさして「すすい」といったのが始まりでしょう。神饌には清浄な水が用いられ、印播沼周辺に限らず、日本の各地には、「井」のつく地名が多くみられます。また、奈良・平安時代の台地上の集落や、河川流域の低地の遺跡を発掘調

査しますと、土器の外側の面に「井」と墨書きされたものが出土する例もかなりあります。自然の湧水地である「井」は人々にとって神聖な場所だったのでしょう。それが種々の状況で背景として、様々に表現されていったものとみられます。

さて、以下、酒々井の地名の移り変りを具体的にみていくことにします。まず、「すすい」は「須々井」という表記で中世の文書に登場します。香取神宮(佐原市)の造営料の納入に関する「香取造営料足納帳」(色川三中写本「香取文書集」)がそれで、この文書により、今から五八四年前の応永十四年には「須々井」という地名があり、大応寺という寺院が二五〇歩の土地を領していたことが判明します。ただし、この当時「須々井」といわれた範囲がどのくらいであ

あったのか、また何人の領主がいたのかなどについては残念ながら不明です。そしてまた、日蓮宗本土寺(松戸市)の過去帳(『千葉県史料中世篇・本土寺過去帳』)には、その没年は不明ですが、什兼と妙現(行智の母)という二人が、「ス、イ」に關係する人物として記載されています。

そして時代は下り、江戸時代の例ですが、水戸徳川家・徳川光圀(水戸黄門)の『甲寅紀行』をみますと、そこには「文字には酒々井と書き、仮名にはすゝゝとあるなり」と記されています。この紀行は、徳川光圀が、今から三十七年前の延宝二年に鎌倉への行路

その要所を記録したのですが、四月二十六日には成田から伊勢野山(伊藤)を経て、中川村に出て、ここで「印播浦」を望んでいます。そして酒々井に至っては、近辺の勝胤寺・将門山・清光寺を見学して「薄暮の後に「酒々井の旅寓」に宿泊しています。この記事から、当時はすでに「すすい」に「酒々井」の文字を当てたことが判明し、そして何よりも重要なのは「すすい」という呼び名が、まだ歴然として生きていたことです。それがいつ頃「しすい」と呼ばれるようになったのでしょうか。その移り

変りは、はっきりとわかりませんが、しかし、この後に書かれた成田参詣の紀行文には、「酒々井」の文字表記に「しすい」とふりがなされたものが散見します。で、「すすい」から直ちに「しすい」へと変化していったのではなく、この間に「しすい」と呼ばれた期間が介在するようです。「須」が「酒」の文字に変わってしまったために、いつ頃か「しすい」と呼ばれ、それが省略されて「し」となっていたのでしょう。このように、地名の変化は、現在の町の名に受け継がれた「酒々井」の文字にも確実にみられます。

すなわち、酒々井については「しすい」という呼び名をもって古くからの地名とし、これをもって語源解釈の材料とすることはできないのです。なお、冒頭に述べたことは「すすい」を前綴とした結果ですが、その解釈は人様々といえるでしょう。これはあくまでも一つの見解にすぎませんが、皆さんも考えてみてはいかがでしょうか。「すすい」(酒々井)ではなく、「すすい」(須々井)としての本来の意味を、それが、正しい酒々井の歴史を、着実に後生へと伝えていくことにつながるのではないかと考えます。



幻の妙見神社が出土

八月十八日(日)、郷土研主催による郷土史講座が中央公民館視聴覚室で開催されました。

当日は、印旛郡市文化財センターの木内達彦先生を講師に招き、演題「本佐倉城跡発掘の概要」のもとに四十一名の熱心な聴講者の熱気にあふれました。

今回行なわれた発掘では、元服式を行うなど、千葉氏の信仰のよりどころでありながら所在地の判らなかつた妙見神社が、土壇と多数の灯明皿を伴って発見されたこと、それが二の丸の中心にあったことで妙見神社が千葉氏にとって精神的に非常に大きな位置を占めていたことが判つたのが大きな成果だといふことです。またお茶道具や青磁・白磁など当時の高級品の出土も多く衰えたといつても、まだまだ下総の雄であった千葉氏の日常生活が窺えるとのこと



文化財清掃の日

七月二十一日の日曜日朝も又暑くなりそうに晴れあがっていました。

七時四十分頃隣蔵院へ行くとき数人が集っておられたので、早速清掃地の一つ上岩橋貝層へ移動しました。男女合わせて十五人の参加者。男性は急傾斜面に登って長くのびた草をどん／＼刈り落とし、女性でも元気のいい人は上に登って大活躍。おしとやかな人は下草をとそれぞれが一生懸命頑張ったので、一時間余りで綺麗になりました。冷たいジュースなどをうるちしていた頃、カンカンム口横穴の清掃が終わった方達が十人ほど合流。一緒に伊藤の松並木へ。ここまでは十五人ほどの方が松の下草刈りとゴミを集めて下さってすっきりきれいになっていました。

今日は更にこの後、下岩橋の田の池の水路に育ったミクリと喜瀬を基の総合公園の沼に移すとのこと。泥田の中から掘り上げてどん／＼だらけのままの若い男性につづいて女性も口を手伝いながら植えこんだ。速慮なく照りつける真夏の太陽に疲れ切つて、駐車場の隅の木陰で配られたおにぎりとお茶で一息ついた時は、まるで大仕事を終えたような満足感を味わいました。炎天下で重労働して下さった方々、本当に御苦労さまでした。

お知らせ

植物生態図鑑原画展

「浅野貞夫、植物生態図鑑原画展」が左記の通り開かれます。十日の観覧会には、当郷土研及び酒々井町史の植物の指導をうけました水本氏幹先生が同行されますので、随意に参加下さい。

原画展

主催 千葉県植物学会・後援 佐倉野草会

日時 十月九日(休)〜十月十三日(日)

場所 川村美術館・ギャラリー

観覧会(野外観覧・坂戸周辺)

日時 十月十日(休) 午前十時

集合場所 川村美術館待合所

費用 印刷代、二〇〇円

交通機関 京成佐倉駅前しじや画廊前

午前九時十五分発、川村美術館館行に、乗車下さい

浅野貞夫先生の紹介

前千葉県生物学会副会長、現在は泉自然公園の指導をされています。五十余年にわたり植物の分類と生態を研究、特に精密な観察に基づくスケッチ画は極めて高い評価を得ております。植物学者。

三度咲きの月下美人

夏の一夜限りの幻想的な花を咲かせる月下美人を葉巻としてから五年前、初めて花が咲いた。そして何を思ったのか三度目の花を咲かせようとしている。一度目の花は、私の誕生日の七月二十五日に八このプレゼントをしてくれた。一家であかす眺めて大喜び。二度目は一ヶ月後の八月二十五日に二この花を、そして三度目の花の蕾が二こ、七種ばかりに成長

郷土研日誌

10月〜12月

月日	内容	参加人数	月日	内容	参加人数
7/12	県内見学会	73名	9/1	第四四半期 役員会	19名
7/16	史談会	22	9/7	生涯学習フェスティバル 文化展参加 実行委員会(1)	8
7/18	酒々井町の年中行事と誌誌会	40	9/10	名譽探訪 品川方面	31
8/7	文化財愛護活動	15	9/13	文化展参加 実行委員会(2)	8
8/7	生涯学習フェスティバル 文化展について 臨時役員会	41	9/14	史談会	19
8/8	郷土史講座 講師 木本達彦先生	8	9/18	酒々井町の年中行事と誌誌会	7
8/27	編集委員会	15	9/21	文化展参加 実行委員会(3)	8
	見学小委員会				

会計報告

7月12日・16日	茂原・長南方面	
参加者	73名	会費 4700円
収入	会費	343,100円
支出		313,542円
内訳	町パス使用料	20,606円
	昼食代金	270,270円
	ヒール入場料	18,160円
	下見ガリン代	2,431円
	資料代	2,081円
残高		29,558円
* 郷土研より442円補充して、30,000円を、豊洲普賢堂 救済金として日赤千葉支部へ贈りました。		

夜の八時近くに開き始め、強い芳香が家の隅々まで漂い、油桐の花のシヨリが始まり、あくろ朝の明け方にはしほんでしまうその豪華な葉の中かき花の三度目のシヨリは二十五日を選び、たろうか。二十五日は亡夫の月命日でもある。月下美人が好きで育ててみたいと本を片手にノートしていた顔が、白い花と重なってくる。今日は九月十二日、三度目も二十五日に咲くといね」と孫と語り合う今宵です。

心洗われに見学記

亀井 香久乃

七月十二日、燃えたつ緑を車窓に見ながら心はずませ、談笑のうちには本日の見学会最初の、ひめはるの里に着いた。見渡せば、周囲は小高い山々に囲まれ、景観秀美のこの自然郷に付けられた此の名は、どんな意味を持つのだろうか。先ずそれを知りたくて、管理センターでたずねた。此のひめはるの里の麓にある八幡山に、現在もいる、ひめはるの蟬、(天然記念物)からとって付けられたそうである。大規模の園内には、熱帯植物園、バードバラダイス等、楽しみいっぱい嬉しい所で、時刻の経つのも忘れた。

次は、浄土宗、称念寺の阿弥陀如来像(口を開き白い歯を見せているため歯吹き如来と言われている)を拝し、お堂の欄間の彫物、波間三匹の竜の顔が、正面を向いているのは初めて見た。作者(武志伊八)なる人物の想像力の逞しさに驚く。

次なる長福寿寺の境内の右手には、大きな大日如来像がお立ちである。つばらな美しい目、

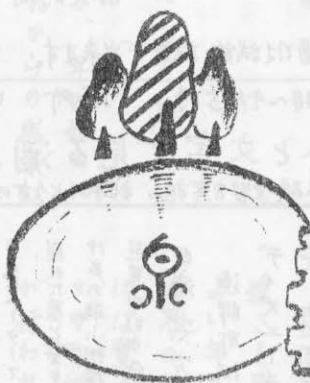
口元は、乳呑み子の唇に似ている童顔の立像である。傍におられた会田会長にたずねると、「胎蔵界のお姿です」と教えて下さった。そのお顔から納得できた。此の寺は、関東一の天台宗の名刹の由、遠く桓武天皇の勅願により、伝教大師の創建(七九八年)だそう。三途台なる地名も、何を語らんかなである。境内の奥では、青少年研習や紅花染の講習など、多角に時代に沿った運営がなされているように感じた。

さて、今日の楽しみは、長柄ふる里村での食事。運ばれた山海の珍味は盛り沢山で、食の喜びを満喫し、スイスのレマン湖を模したというプールは青く澄んでいた。

最後に目の薬師、布田薬王寺をお詣りして今回の見学会は無事に終わった。

余剰金を雲仙救護会へ

ひめはるの里の花普請の時期が終了しましたので、入場料が半額になり余剰金が出ました。参加者皆様の御賛同をえて雲仙救護会に千葉銀行を通じて三万円に寄付させていただきますので御報告いたします。(会計より)



みみ休みのようにお仲間にお知らせします。お仲間にお知らせします。お仲間にお知らせします。

築地から佃島を歩いて

武藤 恵子

六日、雨模様の中、四十三人の人達が京成酒々井駅に集まり出発。現地に着く頃には日が照りはじめ暑い一日となりました。

日本近代事始、地を見て築地本願寺へ。本願寺の建物の中へ入って驚いたのは古レンゴ様式を採り入れた豪華な外觀との違いです。室内は薄暗く、硬いベンチが並んでいるだけのなんとも単純なものがかえって自分の心の中が見える様です。

昼食をとる予定の築地の場外市場は主婦の目で察しみにしていただけです。やはり物価は安く、あれがこれと買い込んでしまえば、リュック一杯の人もおりました。

昔懐かしいポンプがあり、そこにはアルミのコップがひもでつるして下がってたりして、誰でも水を飲んだり手を洗ったり出来るのです。それに一軒一軒の垣根がなくとも開放的ですが、隣りの声が筒抜けでかくし事が出来ないのではないかなどという心配をしながら、近くの住吉神社におまいりし、佃煮がおいしくと聞きお店をおみやげを買っての帰宅となりました。きつとみなさん次の日の朝は温かい御飯で佃煮をいただいた事でしょう。

おつかれ様でした。

お知らせ

酒々井町・酒々井町教育委員会主催の「生涯学習フェスティバル」に郷土研究会も参加することになりました。

「絵と文字で見る酒々井町」の
— 絵画と拓本展 — の
テーマのもと、珍らしい絵画や拓本で酒々井町の歴史を見えます。体験学習として、拓本のとり方も実習しますので、多数の参加をお待ちしています。

日時 平成三年十一月十五日(土)十七日(日)

場所 中央公民館・会議室

絵画と拓本展



郷土研行事業内

10月~12月

	10月	11月	12月
史談会	12日(土) 中央公民館・会議室 「酒々井町の年中行事」を読む会 午後1時30分	9日(土) 中央公民館・会議室 「酒々井町の年中行事」を読む会 午後1時30分	14日(土) 中央公民館・会議室 「酒々井町の年中行事」を読む会 午後1時30分
名勝探訪 野草の会	8日(火) 京成酒々井駅 8:26 出発 (名勝探訪) 深川方面 京成酒々井 → 西船橋 → 東西線西船橋 → 門前仲町 → 深川不動 → 富岡八幡 → 法乘院(深川えんま) → 紀伊国屋文左衛門の墓 → 深川江戸資料館 → 靈巖寺(松平定信墓) → 清澄庭園 → 深川芭蕉庵跡 → 芭蕉記念館 → 森下町 → 京成酒々井 (雨天中止)	11月の名勝探訪は「休ミ」です。 一部バスを使用しますので申込受付けます。 申込 10月11日(金) 9:00 場所 公民館ロビー 費用 実費 定員 45名 キャンセル 実施日5日前まで 会田秀雄宅() までご連絡下さい。	3日(火) 京成酒々井駅 8:26 出発 (名勝探訪) 浦安方面 京成酒々井 → 西船橋 → 東西線西船橋 → 浦安 → 釣舟屋 → 旧役場跡 → 清龍神社 → 一室城院 → 大蓮寺 → 宇田川邸 → 大塚野 → 浦安駅前(昼食) → デイズ・ランドホテル群 → 浦安郷土資料館 → 浦安駅 → 京成酒々井駅 (雨天実施)
県外見学会	11月22日(金) 等々力溪谷・横浜方面 コース 酒々井 → 用賀 → 九品仏(浄真寺) → 等々力不動 → 等々力溪谷(昼食) → 雪印乳業横浜チーズ工場 → 横浜ベイブリッジ → 酒々井 ※等々力溪谷は紅葉が見頃、東洋一の雪印チーズ工場では試飲・試食が出来ます。	申込み 参加費用 3,500円 申込日時 10月17日(金) 午前9時 申込場所 中央公民館ロビー 定員 70名 (定員に1次第々切) キャンセル 実施日5日前まで 連絡先 会田秀雄宅() 出発時間 中川・中央レンタル前 6:50 中央台・日栄クリーニング 6:55 中央公民館 7:00	(雨天実施)
生涯学習フェスティバル 文化展参加 (酒々井町教育委員会)	11月15日(金)~17日(日) 午前9時~午後5時 場所 中央公民館・会議室 展示内容 絵画と拓本展「絵と文字で見る酒々井町」 【拓本教室】 開催3日間毎日体験学習を実施、拓本のとり方の実習を()まで是非実習してみてください。		

見学会案内



◎ 深川方面 10/8 (火)

大江戸八百八町の中で深川は、庶民の喜ぶ哀楽の表情が色濃く染みこんでいた。大震災と戦災で大きな被害を受けたが、その伝統はあちこちに残っています。

成田不動の古開帳が行われた深川不動。巨大な横綱碑のある富岡八幡。法乘院のエンマ様はコンピュータで説法なされる。家商紀伊屋の形崩れた墓と贅を尽した清澄庭園。けいこ相撲のかげ声の賑わい相撲部屋を抜けて、万年橋あたりは芭蕉ゆかりの地。今回はそんな深川を歩きます。

◎ 浦安方面 10/3 (火)

漁師町だった古い町と若者達が遊ぶデイズ・ニートランドのある新しい町、浦安。十二月はこんな浦安を歩きます。

地下鉄東西線浦安駅から山本周五郎の小説「青べか物語」で有名な長さんの釣舟屋に古い漁師町の面影をたずね、旧役場跡から清龍神社を参拝し、堀江の宝城院では元文元年(一七七六)造立の庚申塔(異文)などを見て、大蓮寺、宇田川邸から大塚邸へ、おなかの虫も鳴く頃駅前にもどり昼食。元気がなくなったところでデイズ・ニートランドホテル群を外から眺め、次に浦安郷土資料館を見て、焼給のおみやげを買って帰ります。

◎ 等々力溪谷・横浜方面 11/22 (金)

九品仏(世田谷区奥沢、浄真寺 東叡浄土宗)芝増上寺の別院で、延宝六年(一六七八)碩碩上人が開山した巨刹。九体の阿彌陀像が安置されている。九は阿彌陀像の造立は徳川時代には行なわれたが、京都の淨瑠璃寺とこの以心院は深遠ではない。この浄真寺は、七工出羽守の奥沢城跡といわれ、城の土塁が残っている。

◎ 等々力不動(世田谷区等々力、満願寺別院) 真言宗智山派、滝轟山明王院。一般にはリキカ不動の名で親しまれている。約八百年前、興教大師が開山した寺。

◎ 等々力溪谷(世田谷区等々力) 矢野川が多摩川の河原段丘を穿ちし出来た溪谷。水深十メートルの深淵が、一躍、絶く公園は長と紅葉の名所。

◎ 横浜ベイブリッジ 横浜市中区新山下から鶴見区の大黒町まで海をまたいで架けられた全長八百六十メートルの橋で、首都高速道路の一部。イルミネーションで浮かび上る夜の橋の眺めは格別で、今もトレイルランニングの名所です。

あどがき

梅雨時からの不順な気候がトンボの異常発生を招いたのでしようか。そして八月には思いがけない低温に驚かされたり、記録的な残暑の長さに翻弄されました。

皆様、負けずにお元気ですか。

郷土研究会も「生涯学習フェスティバル」の文化展に向けて、絵画と拓本展を開催致します。名勝探訪、県外見学会等楽しい行事があります。どうぞふるって参加下さい。お待ちしております。ご意見・ご希望も寄せ下さい。